

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



岩橋英遠「彩雲」

1979年 紙本彩色 148.0×209.0cm (北海道立釧路芸術館蔵)

平成10年に開館した北海道立釧路芸術館では、〈映像芸術〉〈自然と芸術〉〈地域と芸術〉を主な作品収集方針としている。釧路芸術館の開館に際しては、地域の方々による、作品寄贈のための募金活動がすすめられ、その篤志は総額1億2千万円を超えるものとなって、収蔵作品の最初の礎が築かれたことは非常に意義深いものがある。とりわけ、釧路しんきん地域振興基金の寄付によるこの岩橋英遠の「彩雲」は、館のコレクションを代表する1点である。

大きく空に浮かぶ雲の塊。背後には太陽が隠れ、その光は雲を通して、幾多の諧調に変化する微妙な色彩を周囲ににじませている。作者・英遠が洞爺湖畔で眼

にした光景を絵画化した作品である。

彩雲とは、太陽の近くに見える雲の縁が、光の回折で色どられ美しく輝くことをいう。しかし画家が描いたのは、気象現象の単なる再現ではない。心をとらえた一瞬の光景の、さらに奥深い自然の根源に想いを深めているものといえる。

岩橋英遠は自然を主要な題材として、人智を超えた自然の力や厳粛さ、そして神秘や幻想を、壮大なスケール感で書き出した。独特のロマンティシズムの宿る悠遠たる画風は、大きな感銘と共感を呼びおこすものであろう。「彩雲」はそうした英遠芸術の特質を存分に示した屈指の名作である。

私的なこと

ダイナミックな夏休み

美術家 木路 毛五郎



早朝の駅は、真夏の観光シーズンとはいえどことなくひんやりとして、人もまばらで物静かな空気が漂っている。八月六日、六時四五分。トロントの中心駅、ユニオン・ステーションからカナダの首府オタワに向けゆっくりと汽車はすべり出した。

オタワまで急行で四時間三〇分はかかる。日帰りするには始発の汽車に乗り終列車に乗るほかない。スピードをぐんぐん上げて突っ走る列車は、日本の華麗な列車とは異なり、鉄の弾丸の趣がある。狭い国土を走る列車は華麗な雰囲気かふさわしく、大平原を突き抜けるには、ダイナミックな鉄の塊が似合う、と一人うなずき、車窓に流れる風景に

目をやる。

私は、トロントによく行く。車で走るときも、いつも思うのだが、景色が実に北海道に似ていて、というよりも、むしろそっくりで、びっくりするのだった。自然体系的、植物学上のつまり学問的に解説すると、別段不思議なことではないのだろうが、感傷的にはほっとしたり、驚いたりするのである。

オタワのナショナルギャラリー・オブ・カナダ（国立美術館）で六月一五日から九月一六日まで、グスタフ・クリムト（一八六二～一九一八）の回顧展が開かれていることを知り、私は過密なスケジュールにやり繰りをつけオタワに走った。クリムトはオーストリアが生んだ世紀末美術の巨匠として知られるが、私にとつて、特に好きな画家というわけではない。ただ、私的に、無縁な画家とはいえないかもしれない事がある、大回顧展であれば見逃す訳

にはいかなかったのである。どのくらい大回顧展なのかといえば、絵画三四点、習作八七点。北米で初めて行われる大規模な回顧展と紹介されている。ウイーン

の美術館が主体になるが、世界中の美術館から名作を集めている。日本からも三点寄せられていた。決して多作とはいえない、どちらかといえば装飾美術故に世界美術史上ではマイナーな扱いを受けていたクリムト

の作品が、これだけ一堂に集まる機会はないだろう。

ところで、今ここでクリムト論を書くつもりはない。私と、何故クリムトか、について極めて私的なことではあるが、述べる必要は、書き出しの手前あるかもしれないので、若干触れてみると、クリムトの弟子にエゴン・シーレという画家がいる。シーレはクリムトと同様特異な画家だが、線描



ナショナルギャラリー・オブ・カナダ

の名手で、エロチズムを表現している。その、線描をみて、友人の美術評論家が、線描を得意とする私にエゴン・シイレを少し研究してみてはと、混んとして、いわゆる画風定まらない私に示唆を与えてくれた。丁度そのころニューヨークでシイレのドローイング展があって、早速ニューヨークへ飛び、じっくりと眺め、なるほどとうなずける所もあり、アトリエにとつて返し、エスキース（研究作品）を起こしたのである。

結局は西洋人と東洋人の感性の垣根を乗り越えることはできず、ただ、表現技術上の工夫のやり繰りに終始するだけで、本質を衝くものではなかった。膨大なエスキースを放り投げたとき、偶然に今の画風を引き出すことができた経緯があった、そこから、キジ↓シイレ↓クリムトのラインを引いたのである。

作品が形成される過程にあって、作家の背景がどの

ように作用されるものなのか他人事のように冷たく考える余裕はないが、ただ私の作品は「生命」の表現であり、それは、エロチズムとは無縁ではなく、その限りにおいて、シイレ、クリムトにつながるものがある。

私のトロントでの仕事は新しく刷り上がった版画の確認と二五五枚の作品へのサインの書き込みだったが、クリムトの巡回展鑑賞のボーナスがつき、ラッキーであった。

カナダでの仕事を終え、ニューヨークへ飛んだ。ラガーディア空港に降り立ったとき、「先生」と声をかけられた。一八年前の美大予備校の教え子の声だった。彼は美大卒業後ニューヨークの美術大学に留学、卒業後、永住権を申請し認められ、ロングアイランドに家を買ひ、両親を呼び寄せ立派なアメリカ人として活躍をしていた。「先生、何でもお手伝いしますから声をかけてください」の一言が

頼もしく、教師みょう利につきる思いをしみじみとして、連絡先を聞き、双方、ばたばたと忙しく、じゃあ後でと慌ただしく握手をして別れた。

ニューヨークでの仕事は、ニューヨークで私の作品を自分の作品とジョイントさせてショーをしたいと、私の

作品カタログを見て、東京の若い友人（アメリカ人）を通して申し込みがあり、おもしろそうな仕事になりそうなので、話を聞くことが一つと、その後のチェルシー（五、六年前から、ソーホーに変わって新しく胎動した）したハドソン川に沿った大型倉庫街で新しい芸術エリアに変ぼうしようとしている（の状況を取材することだった。

私の作品とジョイント、



ニューヨーク・チェルシー地区の大型倉庫街

セプション主体にやってみたいという。会場はチェルシーの一角のようだ。

さて、そのチェルシーは予想よりはゆっくりだが、確実に新しい芸術活動の拠点になるうとしていっている。ただ、環境の要求に、芸術活動そのものが、今一つ精彩を欠いているようではある。のぞいた、幾つかのギャラリーに展示されている作品群は、六〇年代から一歩も抜け切っていないが、ダイナミズムを感じさせなかった。たまたまのぞいたギャラリーがそうであったのかもしれないが・・・

筆者プロフィール（美術活動近況）

二〇〇〇年

一月 21世紀美術展出席
（東京都美術館）

三月 札幌市芸術展出席

五月 TORONTO コロン

バスセンターで個展
十一月 第五回小磯良平大賞
展に「媚眼秋波」が
入選

※一九七九年美術館協力会理事

就任。現副会長

平山郁夫展

北海道立近代美術館学芸員 土岐 美由紀

平山郁夫は平成十年に文化勲章を受章。名実ともに現代日本画壇を代表する画家として活躍しています。

さかのぼって昭和三十年代半ば、原爆の後遺症で死の恐怖にかられながら、制作でも行き詰まりを感じていた若き日の画家は、祈るような思い

で唐の高僧・玄奘三蔵の姿を描き、新境地を切り拓きました。以来、追求し続けた〈仏教東漸〉(仏教が次第

次第に東へ伝わること)のテーマ。求法の僧や釈迦を描いた一連の作品

は、伝統的な仏画とは全く異なる清新な表現を見せ、戦後日本画の枠を広げるものでもありました。そして

仏教東漸への着眼は、宗教はじめ数多の文物を東へ西へと運んだシルク

ロードへの関心へと発展し、百数十回にも及ぶという取材旅行を敢行し

て、壮大な〈シルクロード〉連作が誕生するのです。写真やテレビ番組の映像でしばしば紹介される、過酷

な自然環境の中でひたすら写生に熱中する画家と、それに寄り添い補助や記録を黙々とこなす美知子夫人の姿は、その旅が決して容易いものではないことを伝えていきます。

今秋、九月十四日から北海道立近代美術館で開催される「平山郁夫展」は、戦後の混乱期から今日に至るまで、画家が辿った半世紀におよぶ芸術的歩みを紹介するものです。

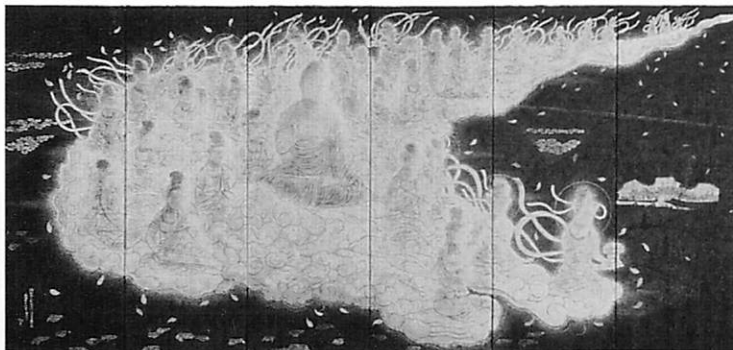
出品作は、平山郁夫が理事長を務める日本美術院展覧会(院展)出品作を主に、本画四三点を含む約七十

点。昭和二十七年、東京藝術大学の卒業制作として故郷に暮らす妹たちを描いた「三人姉妹」に始まり、画壇

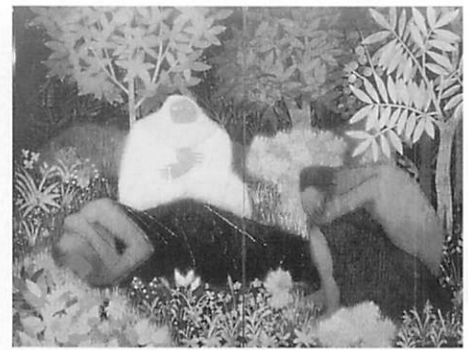
に新風を吹き込んだ〈仏教〉シリーズの一点「天山南路(夜)」や昭和

五三年に逝去した恩師・前田青邨画伯を金色に輝く阿弥陀仏が来迎する

「画禅院青邨先生還浄図」、また被爆体験に根ざして死者への鎮魂と広島



「画禅院青邨先生還浄図」(左部分) 京都国立近代美術館蔵



「天山南路(夜)」 佐久市立近代美術館蔵

再生の祈りをこめた「広島生変図」も後期に出品されます。

さらに〈シルクロード〉連作では、「楼蘭の遺跡」「昼」や「敦煌鳴沙・敦煌三危」「大毗波沙国桃源境」「長安の残輝」など、大画面の作品が並び、見る者を壮大な砂漠の旅へ誘うことでしよう。

これらの作品では、抜群のデッサン力を基盤とした平明な写実描写と、岩絵具の濃厚な物質感を生かした象徴的な色彩表現が相まって、時間の流れや空間の大きさをたたえた心象風景が生み出されており、その無類の画境は国内外で人気を博しています。

本展は、これまで全国で開催された平山郁夫展のなかでも有数の規模であり、ほとんどの作品が北海道初公開となります。今年、薬師寺玄奘三蔵院大壁画の完成に始まり、ユネスコ親善大使としてのバーミヤンの文化財保護活動、高句麗古墳の世界遺産登録支援活動など、たいへんな活躍を見せる平山画伯ですが、その芸術世界を堪能するまたとない機会といえましょう。

MUSEUM CALENDAR

2001. 9月～2002. 3月

美術館の特別展覧会ご案内

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	9/14～10/21 平山郁夫展		10/31～12/2 Art for the spirit 永遠へのまなざし	貸 館	12/22～1/27 A★MUSE★ LAND 2002	2/1～3/21 砂田友治展	
三岸好太郎	9/14～11/18 二人の野獣展 里見勝蔵と三岸好太郎			11/23～3/31 所蔵品展（第3期） 若き日の足跡をたどって			
旭川	9/1～10/14 追憶・旭川の作家たち	10/20～12/9 20世紀の陶芸 人間国宝の世界展 巨匠たちの交流と遊び心		12/15～3/24 旭川美術館コレクション選			
函館	9/19～11/11 朝鮮王朝の美		11/18～12/23 現代の書 松本春子展	貸 館	1/19～3/24 函館美術館コレクションによる 美術鑑賞入門		
帯広	9/14～10/24 2001年シネマ・オデッセイ 映画ポスターの20世紀	11/1～12/12 開館10周年記念 バルビゾンと田園の画家たち		12/21～3/27 開館10周年記念 美術への扉－コレクション十年十色			
釧路		10/6～12/4 MOZUNA KIKO/ 毛網毅曠展 <記憶術としての空間>		12/13～2/3 釧路芸術館所蔵品展 I 美と自然／釧根ゆかりの美術		2/8～3/31 釧路芸術館所蔵品展 II 日本現代写真点描	
札幌彫刻	9/30～11/4 第10回 本郷新賞受賞記念 澄川喜一彫刻展		11/10～3/24 平成13年度後期収蔵品展 土と火の祭り －テラコッタ作品を中心に－				
札幌芸術の森	9/8～10/23 札幌芸術の森15周年記念 東京富士美術館コレクションによる ヨーロッパ絵画伝統の300年	11/3～12/24 札幌芸術の森15周年記念 イタリア彫刻の20世紀		1/5～3/31 収蔵品企画展			

※貸館の場合は、会員証は使えません

平成13年度移動美術館 北海道立近代美術館コレクション名品展

美へのいざない

秀作40展を展示

初日と最終日は

・美術鑑賞入門講座：各1回実施

・作品解説（ギャラリー・ツアー）：随時実施

会期中はビデオ上映、美術図書コーナーを開設

岩内町 9月14日(金)～9月18日(火)

浜頓別町 9月21日(金)～9月26日(水)

湧別町 9月29日(土)～10月3日(水)

新十津川町 10月6日(土)～10月10日(水)

北村 10月13日(土)～10月17日(水)

入場無料

近代美術館

平山郁夫展

九月二四日(金)～十月二一日(日)

日本画家・平山郁夫(七十歳)は昨年の大晦日、奈良・葉師寺玄奘三蔵院の「大唐西域壁画」を完成させました。昭和三十年代半ば、国禁を犯してまで求法の旅を遂げた唐の高僧・玄奘三蔵の姿を描いて以来、追求し続けた仏教東漸のテーマ。壁画はその集大成といえるもので、玄奘が辿ったシルクロードの雄大な風景が描かれています。本展は、まさに画伯がこの壁画を仕



平山郁夫「楼蘭の遺跡 昼」1990年 愛知県美術館蔵

上げるまでに辿った半世紀に及ぶ芸術的歩みを紹介するもので、本道初の本格的回顧展です。瀬戸内の島に暮す故郷の人びとを描いた初期作品から、それに続く仏教をテーマとする作品。そして仏教東漸への着眼から展開したシルクロード連作。さらにシルクロードの終着点でもある日本の風景まで、代表作を一堂に集めて紹介します。

品。そして仏教東漸への着眼から展開したシルクロード連作。さらにシルクロードの終着点でもある日本の風景まで、代表作を一堂に集めて紹介します。

三岸好太郎美術館

二人の野獣

ー里見勝蔵と三岸好太郎展

九月一四日(金)～一月一八日(日)

独立美術協会の結成時(一九三〇年)、三岸好太郎を勧誘に訪れたのは里見勝蔵でした。二人は同展を主な舞台に制作を競い、一九三四年の三岸の急逝によって終わりを告げるまで互いに良き理解者として親交を深めています。ヴラマンクに師事し、日本におけるフォーヴィスム(野獣主義)の旗手といわれる里見勝蔵(一八九五―一九八一)は、強烈な色彩と奔放な筆触によるきわめて主観性の強い表現を確立し、終生、フォーヴィストとしての姿勢を貫きま



里見勝蔵「女」1937年 京都国立近代美術館蔵

した。他方、三岸好太郎(一九〇三―一九三四)は、短い生涯にめまぐるしく画風を変えています。その根底にはフォーヴィスムに通じる抒情的な気質がありました。本展は、近代日本洋画史上に異彩を放った二人の画業を、フォーヴィスム

との関わりと点から明らかにするものです。

旭川美術館

二十世紀の陶芸

人間国宝の世界展

巨匠たちの交流と遊び心

十月二〇日(土)～二月九日(日)

一般に「人間国宝」の通称で知られる「重要無形文化財保持者」は、高い芸術的技術を保存し活用をはかるために設けられた国の保護制度です。昭和二九年に制度ができて以後、昨年までに二七人が陶芸分野の技能保持者として指定を受けています。それぞれの作家は、陶芸の技術と意匠の伝統を引き継ぎながら、独自の創意による造形を極めました。



富本憲吉「色絵赤更紗模様飾壺」

の「心」に触れていただく好機となりました。

本展では、昨年度までに指定された現役一三名、物故一四名の作品約二〇〇点を取り上げ、それぞれの作家の代表的な作品を中心に紹介しながら、作家同士の交流についても焦点を当てます。

函館美術館

朝鮮王朝の美

九月一九日(水)～一月一日(日)

朝鮮王朝(あるいは李氏朝鮮)は、一四世紀末から二〇世紀初頭まで、二七人の王により五〇〇年以上にわたって統治された世界史上まれにみる長命な王朝です。

その間、社会のエリートであった文人による伝統的な絵画や逆に流浪の無名画家たちの手になる民画、また李朝の代名詞ともなっている白磁器、そして細やかな手仕事の極地である家具や服飾、刺繍、組み紐など、特色豊かな



「華角吉祥文宝箱」19世紀

民俗博物館など、韓国を代表する美術館、博物館のコレクションから紹介します。

独自の文化が育まれました。また社会生活のさまざまな場面では、儒教の教えに基づき男性的世界と女性的世界が明確に区別されていました。本展では、そうした視点も含め、生活を一般にわたる美術・工芸品約二六〇点を、道立近代美術館と一部出品作品を入れ替えて、国立中央博物館、国立

帯広美術館

開館一〇周年記念

バルビゾンと田園の画家たち

一月一日(木)～二月二日(水)

開館一〇周年を迎える帯広美術館では、一月一日から記念展『バルビゾンと田園の画家たち』を開催します。帯広美術館は全国でも有数の農牧地帯・十勝平野の真中に位置します。その関連から、一九世紀中頃のフランスで活躍したバルビゾン派をはじめ田園風景や農村風俗を描いた西洋の油彩画や版画を収集してきました。



ミレー
「免のいるアブルモン峡谷の日の出」

園地帯を捉えた写真作品を紹介し、コロ、ミレー、ルソー、クールベら多くの画家たちが、パリ近郊のバルビゾン村を訪れ、緑豊かな森の光景やそこで暮らす農民たちの素朴な姿を描きました。彼らは眼前に広がるありのままの自然と向きあい、その姿を真摯な姿勢で描くことで、フランス風景画の歴史に新たなページを加えたのです。油彩画や版画、写真など一一〇点あまりの作品

によって、一九世紀フランスにおける自然と芸術家たちの関わりを一端を振り返ります。

釧路芸術館

MOZUNA KIKO / 毛綱毅展

―記憶術としての空間―

一〇月六日(土)～十二月四日(火)

釧路出身の建築家毛綱毅(一九四一～二〇〇一)は、現代建築界に異彩を放ちつつ、国内外で幅広い活躍をしておりました。

彼の建築は、東洋的な哲学思想や独特の建築観にも基いており、一九七〇年代から、斬新な意匠の住宅や公共建築などをはじめとする数多くの建築作品を発表して高い評価を得、建築界での



毛綱毅
「建築古事記－曼陀羅2(炎)」1990年

受賞(日本建築学会賞、日本建築美術工芸賞ほか)も多く重ねています。本展では、そうした毛綱毅の創造の世界的根源を探ろうとするもので、彼独自の造形理念や深遠な想像力を示したドローイングや版画など、絵画的イメージの平面作品を中心として、立体模型やオブジェなどもあわせて紹介します。

建築を超えて壮大な世界観・宇宙観をあらわす独特の表現をご覧ください。

芸術の森美術館

札幌芸術の森一五周年記念

東京富士美術館コレクションによる

ヨーロッパ絵画 伝統の三〇〇年

九月八日(土)～十月三日(火)

東京富士美術館(東京都八王子市)は、東西各国、各時代の絵画・彫刻・写真・工芸など約二万五千点を所蔵する総合的な美術館で、とりわけ西洋伝統絵画の宝庫として知られています。本展では、その充実したコレクションにより、ルネサンスからバロック、ロココ、そして一九世紀のロマン主義に



ジョルジュ・ド・ラ・トゥール
「煙草を吸う男」1646年

までいたる西洋絵画史約三〇〇年の巨匠たちの名作の数々を紹介いたします。ヴェロネーゼ、ティントレット、クラナハ、ルーベンス、ヴァン・ダイク、ヴァトリ、シャルダン、ゴヤ、アングル、ターナー、ドラクロワ…。私たち日本人にもなじみ深い印象派が生まれる以前の、ヨーロッパの歴史と伝統から生まれたこれら巨匠たちの作品は、西洋芸術の伝統の豊かさとそのなかでたえず繰り返された創意の試みを、いまなお雄弁に伝えてくるでしょう。

札幌彫刻美術館

第一〇回 本郷新賞 受賞記念

澄川喜一彫刻展

九月三〇日(日)～十一月四日(日)

「本郷新賞」は、五〇年に及ぶ彫刻家としての生涯を通して全国に七〇点を超える野外彫刻を制作した本郷新の偉業をたたえ一九八三年に創設されました。今年第一〇回をむかえ、過去二一年間に日本全国の公共空間に野外設置された彫刻を選考対象として推薦を依頼しました。候補作品は、二二点。この中から、受賞作品を決めるべく選考委員によって厳正な審査が行われました。その結果、受賞作は島根県立美術館



澄川喜一「風門」

に隣接する松江湖畔公園に設置されています。澄川喜一制作の「風門」に決定いたしました。

受賞記念展として、澄川喜一彫刻展を開催します。澄川は、野外彫刻以外を基本として木を素材として《そりのあるかたち》をテーマに作家活動を行っていています。《そり》は、とても繊細で微妙な表現です。抽象的な彫刻に《そり》を与えることで、澄川独特の彫刻作品へと昇華しました。木彫を中心に澄川喜一の世界をご覧ください。

作品を通して作者と共にいる。そして、みなさんと一日を共にする。この二日間、たくさん作品とたくさんの人に出会いました。その出会いの中でその都度感じたことは、「歴史」ということである。作品と対峙することで、その時代に生きた作者の感情が伝わる。確かに作者はその時代に生き、感情があり、人生という歴史があったということ。

これからです



北海道浅井学園大学
人間福祉学部 三年
鈴木 千尋

そして、周りには、私の幾倍かの歴史をもった魅力的な人たちが共にいる。
私の歴史を考えると、浅いというより、まだ何も始まっていないではないか、と思うのだった。私はこれからどんな人に出会い、どんなことを考え、どんな方向に進むのだろうか。そして、その方向は無限なのである。
まだ何もわからない。自分がどの位置にいて、どんな方向にいきたいのかもわからない。しかし、とりあえず可能性だけはあるということに気が付いた。
あの場所であえてよかったです。どうもありがとうございました。

ESSAY

日頃から、「美」に親しみ「美」を楽しんでいらっしゃる方に思いをつづっていただきました。

また、今回は平成12年度の学生美術全道展で、美術館協力会賞（副賞、海外美術研修旅行）を受賞した鈴木千尋さんにもお願ひしました。

これからも皆様からのおたよりをお待ちしています。

美の探訪
参加に際して



福地 大輔

このたび北海道美術館協会の海外研修「第二回美の探訪」第三班のコーディネーターとして、旅行に参加された皆様の美術館巡りのご案内を務めさせていただきました。約二週間の旅の間に訪れたスイス、ドイツ国内二三箇所の美術館。研究成果の粹をつくした公立美術館の特別展、逆に展示環境について首をかしげる部分があるものの、オーナーの作品に対する思い入れが十二分に感

究極は楽しむ心



長峯 慰子

今、近代美術館に林竹治郎の「朝の祈り」が展示されている。この作品の前に立つと、なぜか足が釘付けになり、胸の中にじーんと熱いものが流れる。二四年前の開館当初「朝の祈り」を初めて眼にした時と、今もその感動は少しも変わらない。
私が美術館ボランティアの活動を意識したのは、「朝の祈り」との出会いがきっかけだった。ひとつの作

じられる個人美術館の展示室など美術館ごとの個性は千差万別。しかし、いずれの施設の展示も長い年月を経た作品に対する深い愛情を感じられずにはいられないものであります。
コーディネーターとして、顔の見えるお客様を相手に長期間展示解説を続けるという経験は緊張の連続でしたが、美術館の重要な役割の一つでもある「市民と美の仲立ち」という点について色々と考えさせられる旅ともなりました。研修の場で得た課題を今後の業務に生かしていきたいと思えます。
最後に、この研修の貴重な機会を与えてくださいました協力会の皆様に感謝申し上げます。
(釧路美術館学芸員)

品のドラマに共感を覚え心が癒され感動する。それはこの上もない贅沢で幸せな時間の流れを、生々しく感じさせられるものだった。このような感動を誰かに伝えたい衝動に掻き立てられた。
あれから二〇年は優に越えた今、自ら体験した感動を、地域に飛び込み人々に伝えることを、活動の柱に据えている。人と人との出会いから互いの心に触れ、喜びを共有することを目標に掲げた。志を同じくする仲間も増えつつある。ボランティアにとつての究極の目的は、自ら「楽しむ心」を育むこと。ここからがスタートだとも思える。

新会員紹介

平成13年4月～平成13年8月
(敬称略)

—ご入会ありがとうございました—

4月	札幌市 飯田鈴子	札幌市 田中礼子	札幌市 迫山由美子	札幌市 吉古田恭子	札幌市 伊藤之隆
	札幌市 千田光子	小樽市 山田郁代	小樽市 山岸亨	苫小牧市 関寺美起恵	札幌市 金子翠子
	札幌市 本庄ちはる	5月	北広島市 伊藤富子	札幌市 蒲千高志	札幌市 小島久美子
	札幌市 中川美奈子	小樽市 浦山彰	札幌市 矢野和真美恵	札幌市 平千尾祥子	札幌市 佐野浩
	札幌市 林あつ子	千歳市 郡山茂幸	札幌市 後藤光恵	札幌市 遠藤達哉	札幌市 原口いくみ
	札幌市 田村豊彦	札幌市 今井リツ	札幌市 岡田康子	札幌市 堀井和子	札幌市 舟木久美子
	札幌市 寺西雅夫	札幌市 武田邦子	函館市 宮本澄子	札幌市 新田義英	札幌市 大野いね
	小樽市 奈良智恵	札幌市 佐々木順子	札幌市 古木清子	札幌市 堀井和子	札幌市 佐藤睦子
	札幌市 布施清子	札幌市 川上千代恵	札幌市 竹内啓子	札幌市 新田義英	札幌市 加藤順
	札幌市 杉浦敦子	北広島市 高島由香	札幌市 山下あゆみ	札幌市 丸山真知子	8月
	札幌市 工藤公子	札幌市 竹内渥子	札幌市 山本節子	札幌市 山崎恵子	比布町 太田久美子
	札幌市 藤沢美津子	札幌市 熊谷登起子	札幌市 小野敬子	札幌市 榎崎雅子	札幌市 池田利雄
	札幌市 大川富子	余市町 高橋るみ子	札幌市 城地八重子	札幌市 本田留美子	岩見沢市 大谷悦子
	札幌市 木村節明	札幌市 深谷千代	札幌市 片岡恵純	札幌市 佐藤圭子	札幌市 金網良至
	江別市 轟藤英征	札幌市 小笠原光代	札幌市 山谷久枝	札幌市 高橋幸代	札幌市 永井純子
	札幌市 安藤淳子	札幌市 上野笑子	札幌市 新田篤子	札幌市 大給初子	札幌市 内藤奏子
	帯広市 広瀬ハル子	札幌市 住吉房子	札幌市 保田美砂子	札幌市 河井邦夫	札幌市 佐々木信義
	札幌市 佐藤ヨネ	札幌市 広田美喜子	札幌市 佐々木小夜子	北広島市 平野早苗	札幌市 栗山玉城
	江別市 高橋美栄子	札幌市 坂田美智恵	札幌市 山田綾子	札幌市 吉田恵一	札幌市 川原木笑美子
	札幌市 川又和代	札幌市 今村フミ	札幌市 袴田寧子	函館市 猪上千春	札幌市 加藤裕子
	札幌市 安彦由喜恵	札幌市 杉田和子	札幌市 上西しづ子	札幌市 井上久美子	札幌市 笹原敏子
	札幌市 碓井恵美子	札幌市 安永リ碧	6月	札幌市 坂山下京子	札幌市 石井孝智子
	恵庭市 早田知子	札幌市 安田千鶴子	砂川市 三土すみ子	小樽市 斎藤厚子	旭川市 西川強
	札幌市 山中美樹子	札幌市 橋中早苗	札幌市 佐藤衣里	札幌市 南孝輔	— 法人会員 —
	札幌市 斎藤温彦	札幌市 千葉鞠子	札幌市 熊谷直孝	札幌市 渡部順子	4月
	札幌市 岩下知恵子	苫小牧市 時沢よし子	札幌市 菊地圭子	札幌市 小坂優子	札幌市 北栄保険サービ
	室蘭市 小南恵子	札幌市 辻康子	札幌市 瀨山幸二	余市町 門脇静子	ス株式会社
	札幌市 中居昭男	札幌市 小林晃	札幌市 太田由美子	札幌市 多野中房枝	札幌市 医療法人社団
	札幌市 萩原珠生	札幌市 佐藤建治	当別町 寄木枝美子	札幌市 日向省三	札幌市 胃腸科肛門科
	札幌市 明田川由美子	札幌市 辻小葉要	札幌市 小山洋司	札幌市 野村千恵子	山岡医院
	江別市 山地伸紀	札幌市 小銭美知子	札幌市 阿部田次郎	札幌市 加来ミチル	8月
	札幌市 鎌堂ゆき子	北広島市 大原勢津	札幌市 池地毛五郎	札幌市 荒岡綾子	札幌市 北洋リース株式
	北広島市 藤曾我美江	札幌市 橋本恭子	札幌市 木地有美	恵庭市 福岡昌子	会社
	札幌市 曾我幾久子	札幌市 近藤幸子	岩見沢市 佐々木久美子	札幌市 白幡山久	
	札幌市 堺之瀬奈美子	江別市 小野健雄	石狩市 谷藤幸紀	札幌市 永山久	
	札幌市 高橋美紀	札幌市 津川津多子	札幌市 小野地喜代子		

A・RE・KO・RE

・遠藤郁子ピアノリサイタル
日時 平成13年10月6日(出)
午後2時から30分程度
場所 近代美術館ホール
札幌出身の著名なピアノ奏者、遠藤郁子さん(東京在住)の善意で実施されます。郁子さん自身による解説なども予定されています。

・芸術週間
11月1日(木)から7日(水)まで
近代美術館では、ミュージアム・コンサートをはじめ、いろいろなアート・イベントを開催します。
期間中、これくしょん・ぎゃらりいは無料鑑賞できます。

・A★MUSE★
LAND 2002
冬休みの恒例となりました近代美術館のシリーズで、今年第10回展です。
期間は、12月22日(出)から1月27日(日)まで開催します。
参加・体験型のこの企画展は毎回好評で、年代を問わず楽しみながら美術鑑賞できるよう工夫をこらしています。

事務局だより

平成十三年
通常総会
開かれる

去る五月三十日道立近代美術館講堂において平成十二年度通常総会が開かれ、提案の議題について審議されました。その概要について、大変遅くなりましたが重点項目を中心に報告します。

議案第一号の平成十二年度の事業報告、収支決算報告については原案どおり承認可決されました。その監査報告の中で「大変な経済状況の中であったが黒字で執行されたことは、これを支えてこられたボランティアの活躍なくしてはこの数字にならなかったのではないかと思う、皆さんのご努力に対して敬意を表したい。」との口頭報告がありました。

平成十二年度の事業については、会報三十七号に掲載してお知らせの「事業計画」のとおり実施しましたが、そのほかに十二年七月、旧拓殖銀行

(表1) 平成12年度収支決算総括表 (平成12年4月1日から平成13年3月31日まで) (単位: 円)

収 入 の 部					支 出 の 部				
科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計	
			売店会計	駐車場会計				売店会計	駐車場会計
基本財産運用収入	7,219	7,219	0	0	事業費	49,667,103	12,922,543	22,424,663	14,319,897
会費収入	15,779,000	15,779,000	0	0	管 理 費	6,065,056	6,065,056	0	0
事業収入	39,589,870	1,683,000	25,896,713	12,010,157	特定預金支出	985,306	985,306	0	0
寄付金収入	0	0	0	0	繰入金支出	3,000,000	0	1,000,000	2,000,000
繰入金収入	3,000,000	3,000,000	0	0	予 備 費	0	0	0	0
特別収入	985,306	985,306	0	0	当期支出合計	59,717,465	19,972,905	23,424,663	16,319,897
雑収入	111,775	92,662	11,788	7,325	当期収支差額	△244,295	1,574,282	2,483,838	△4,302,415
当期収入合計	59,473,170	21,547,187	25,908,501	12,017,482	次期繰越収支差額	32,532,421	7,699,838	23,183,041	1,649,542
前期繰越収支差額	32,776,716	6,125,556	20,699,203	5,951,957	支出合計(B)	92,249,886	27,672,743	46,607,704	17,969,439
収入合計(B)	92,249,886	27,672,743	46,607,704	17,969,439	予 算 額 (A)	106,147,000	28,282,000	52,705,000	25,160,000
予 算 額 (A)	106,147,000	28,282,000	52,705,000	25,160,000	差 異 (A-B)	13,897,114	609,257	6,097,296	7,190,561
差 異 (A-B)	13,897,114	609,257	6,097,296	7,190,561					

(表2) 平成13年度収支予算総括表 (平成13年4月1日から平成14年度3月31日まで) (単位: 千円)

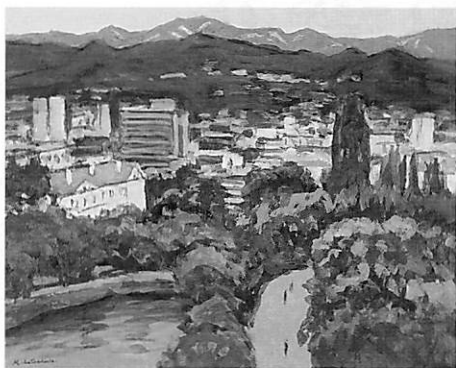
区 分	収 入 の 部					支 出 の 部					
	科 目	予算額	前年度予算	差 異	備 考	科 目	予算額	前年度予算	差 異	備 考	
一 般 会 計	基本財産運用収入	7	7	0	定期預金利息	事業費	(15,917)	(14,281)	(1,636)		
	会費収入	17,595	17,640	△45	法人・個人会員等年会費	美術館活動協力事業費	14,540	12,945	1,595	V会議費、会費、研修費、印刷費等	
	事業収入	1,295	1,440	△145	美術講座受講料・つどい会費等	美術講座等開催事業費	711	640	71	懇話会費、印刷費、つどい会費等	
	寄付金収入	10	10	0		美術館研修視察事業費	265	265	0	コーディネーター費等	
	繰入金収入	4,000	3,000	1,000	売店・駐車場会計から繰入	美術優秀検索顕彰事業	401	431	△30	協賛費の増額等(海外旅行研修費等)	
	特別収入	38	40	△2	美術振興基金利息	管 理 費	6,787	6,412	375	運営管理費	
	雑収入	14	20	△6	普通預金利息	特定預金支出	40	40	0	懇話会費等	
	当期収入合計	22,959	22,157	802		予 備 費	0	100	△100		
	前期繰越収支差額	7,699	6,125	1,574		当期支出合計	22,744	20,833	1,911		
	収入合計	30,658	28,282	2,376		当期収支差額	215	1,324	△1,109		
特 別 会 計	売上収入等	31,000	32,000	△1,000	売上収入	事業費	28,510	30,465	△1,955	仕入、賃金、施設賃借料等	
	雑収入	10	6	4	預金利息	繰入金支出	2,000	1,000	1,000	一般会計へ繰出し	
	当期収入合計	31,010	32,006	△996		当期支出合計	30,510	31,465	△955		
	前期繰越収支差額	23,183	20,699	2,484		次期繰越収支差額	23,683	21,240	2,443		
	収入合計	54,193	52,705	1,488		合 計	54,193	52,705	1,488		
	駐 車 場	駐車料金収入	19,000	19,200	△200	駐車場使用料収入	事業費	16,024	16,759	△735	管理委託料、土地借上料等
		雑収入	9	9	0	預金利息	繰入金支出	2,000	2,000	0	一般会計へ繰出し
		当期収入合計	19,009	19,209	△200		当期支出合計	18,024	18,759	△735	
		前期繰越収支差額	1,649	5,951	△4,302		次期繰越収支差額	2,634	6,401	△3,767	
		収入合計	20,658	25,160	△4,502		合 計	20,658	25,160	△4,502	
総 合 計	105,509	106,147	△638		総 合 計	105,509	106,147	△638			

所有の美術品が売りに出されたので、急遽理事会を開催し入札会に参加し、「美術振興基金積立金」から松島正幸「札幌の新緑」油彩三〇号一点を購入して保管しております。

会員数については、平成十三年三月末で法人・個人会員合計一、七八〇人、前年比六人の減でした。平成十二年度の収支決算については「表1」のとおりです。

議案第二号の平成十三年度の事業計画、収支予算案については原案どおり承認可決されました。

議案第三号の会員の資格喪失（会費を二分分以上納入しないときは除名とする）については、法人会員三人、個人会員九十三名が資格喪失として原案どおり承認可決されました。



松島正幸「札幌の新緑」1978
油彩・キャンパス

ここで、平成十三年度の事業計画及び予算について報告します。年度事業は次のように計画しています。

- 一 道立美術館の事業活動に対するボランティア活動協力
常設展の解説・美術関係資料の整理・十一月の芸術週間での事業・アミューズランド事業協力等
- 二 美術展観覧者増員への協力
会員証利用による美術展観覧者の増員協力・観覧料の負担
- 三 美術館普及活動への協力
会報・ポスター配布・展覧会案内送付等の広報活動及び館外での美術館普及活動等
- 四 美術講座の実施（ボランティア養成を兼ねる）
四月から九月までの十六講座（ボランティア希望者はこの講座のほか、ボランティア各部（事業部、広報部、売店部、解説部、資料部、研修部、特別活動部）が実施する専門養成研修を三月までの間受講
- 五 「ついで・2001」の実施
通常総会の終了後開催（参加者―協力会会員・美術館関係者・美術作家及び一般市民）
- 六 「楽しい青空教室 Part VII」

の実施（対象 小学生）

七 美術研修旅行の企画・実施

(1) 第九回道内旅行（未定）

(2) 第二十二回海外旅行「ドイツ・スイスの美術館・世界遺産巡り」とライン川下り―十一日間の旅―

六月上旬～七月上旬（実施済み）

(3) 第十九回道外旅行（未定）

八 図録・絵はがき等の作成・販売

九 「美術館協力会賞」の贈呈

学生美術全道展への後援と最優秀作品へ賞の贈呈・副賞として海外美術研修旅行に招待

十 会員の拡大

十一 売店・駐車場の経営・管理

十三年度収支予算については、「表2」のとおりです。

なお、紙面の都合で表2には表すことができませんが、特に注目すべきものとしては、支出の部の一般会計の事業費中、美術館活動協力事業費の「観覧料」は前年予算比一五〇万円増としたことです。これは十三年度の展覧会の内容（エジプト展、平山郁夫展等）から会員証利用者の利用度が増えると予想したことなどです。これと連動して特別会計の売店・駐車場事業の収入も増えることが予想されそれに必要な予算編成をしております。

お知らせ

国内美術研修旅行は次のように実施します。

十一月七日(水)から十日(土)まで、三泊四日。

「みちのくの秋の美術をたずねて」

秋田、盛岡、仙台など巡ります。

平成十三年度の道内美術研修旅行は休止とさせていただきます。

「ついで・2001」開催

五月三十日、協力会総会終了後、恒例の「ついで」が近美ロビーに於いて開催されました。「ワインと音楽の夕べ」と題し百数十名の参加で始まりました。国立音大同調会のピアノ・歌・フルート演奏も行われ、ワイン・美味しい食事・音楽で思い思いに交流の輪ができて、親睦を深めました。また今回は会場内にボランティアの活動を紹介するコーナーを設け、多くの方々に足を止めていただき、熱の入った交流の場がもう一つ咲きました。



美へのかけ橋

アルテピア会員募集

世界の art に出会える

来館者の声

『エジプト展』を見て
力強く或いは繊細に、威厳と個性を表すファラオたち。ふと身に着けたくなるモダンなセンスに輝く胸飾り。五千年の鼓動が、今もなお、息づいている。
宮崎真理子

『人間賛歌』を見て
忘れかけていた、ごくありふれた日常…心はもっと豊かだったかな…を思い起こさせる。素のままの人間の描写から、生きる力強さが伝わる。
朝倉 季子

年会費等詳細は北海道美術館協力会（アルテピア） 札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



近代美術館売店商品

エジプト展

観覧二〇万人突破!!

二〇〇一七二名。近代美術館開館以来最高の入場者数をもってエジプト展が終了した。

新世紀を生きる人々に時空世界を越え、大きな夢と力を与えた「エジプト展」。石と砂と神話の芸術。

同展を訪れた人々は、永遠の命を信じて生きた遠い国のファラオ（王）達に思いを馳せ、更に「ピラミッドや神殿に触れてみたい」「熱い砂の上を歩きたい」「ミイラが見たい」と一段と夢を膨らませる企画であったように思われる。

埋め尽くす会場のそこそこで、「エジプト最高!」の囁きが聞こえた。

編集 だより

39号の編集作業の時期に、近代美術館で開催されていたのが『エジプト展』と『朝鮮王朝の美』でした。世界の歴史・文化を身近かにし、美術館のもつ多様性を再認識しています。

季節は「芸術の秋」。近代美術館の前庭の木々がとびきりの色を装い出迎えてくれることでしょう。多くの方に美術館に親しんでいただければ、と広報部員一同願っています。

皆様からのご意見などをお待ちしています。